



2018年度 連結決算の概要

2019年5月16日

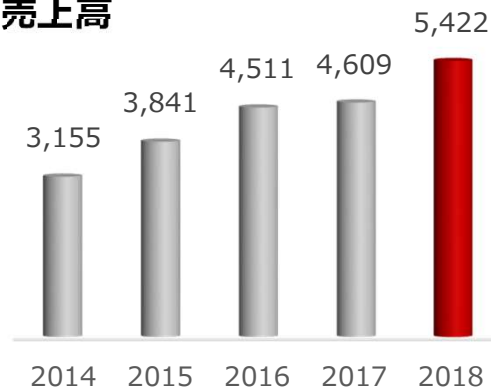
連結業績ハイライト

6期連続（2013年度～）増収・営業増益

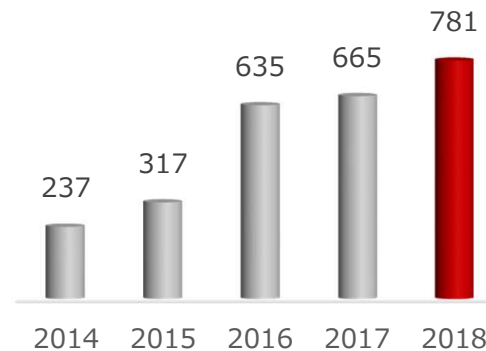
（単位：百万円）

	2017年度	2018年度	対前期増減	
			増減額	増減率
売上高	4,609	5,422	+813	+17.7%
営業利益	665	781	+115	+17.4%
経常利益	714	976	+261	+36.7%
当期純利益	556	674	+117	+21.2%

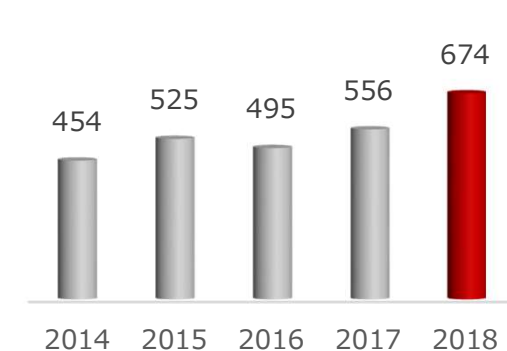
売上高



営業利益



当期純利益

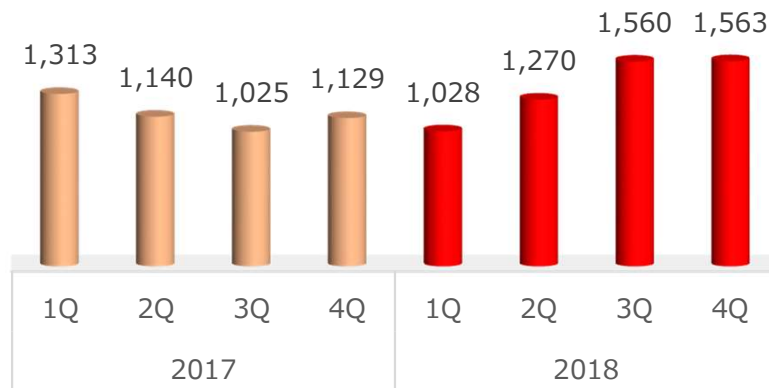


業績推移（四半期推移）

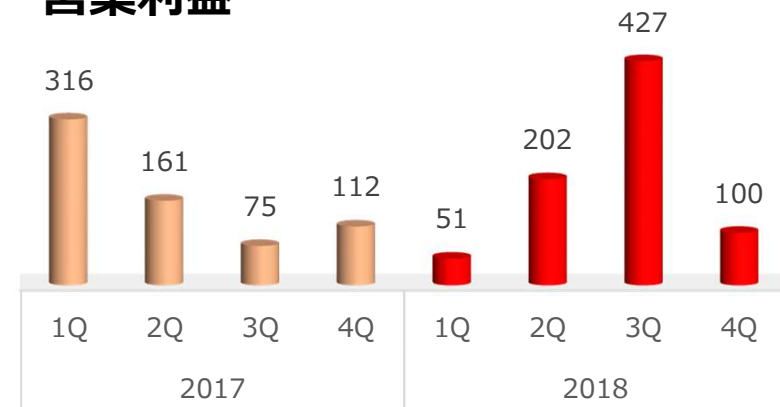
当4Qは期末経費処理及び光部品増産対応費用増で営業利益減少

（単位：百万円）

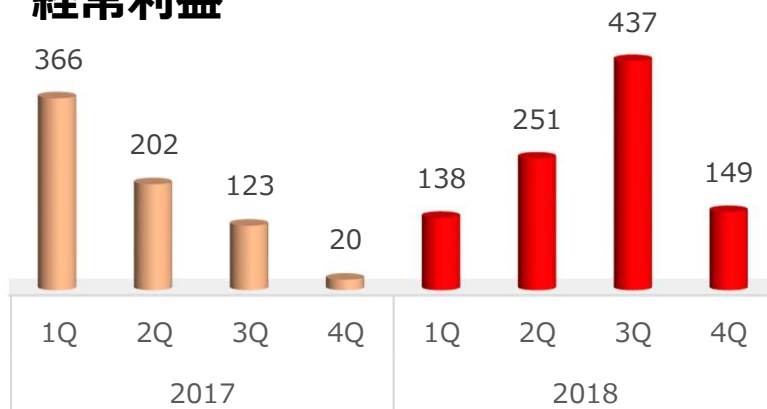
売上高



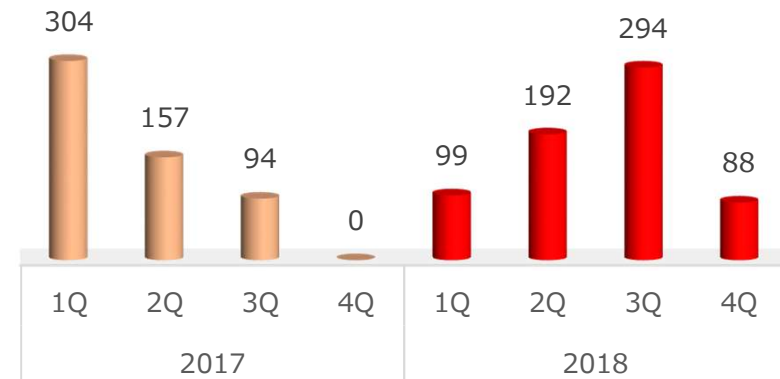
営業利益



経常利益



四半期純利益



当期純利益の前年同期対比分析

当期純利益 前期比21.2%増

(単位：百万円)



売上総利益		販管費		営業外損益		特別損益	
売上増	+813	人件費増	▲106	為替差損益	+132	投資有価証券売却益(*)	▲28
原価増	▲505	経費増	▲52			投資有価証券評価損	▲59
		開発費増	▲33			固定資産除却損	▲10

* 前期 投資有価証券売却益 (28百万円)

キャッシュ・フロー

増収に伴い売上債権、棚卸資産増加

(単位：百万円)



営業CF

税前当期純利益	+ 905
減価償却費	+183
売上債権の増加	▲478
棚卸資産の増加	▲189
仕入債務の増加	+218
法人税等の支払	▲218

投資CF

有価証券及び 投資有価証券取得	▲504
有形固定資産取得	▲184
投資有価証券売却 及び償還	+294
貸付金の貸付け	▲40

財務CF

配当金支払	▲176
-------	------

事業別損益

(単位：百万円)

売上高

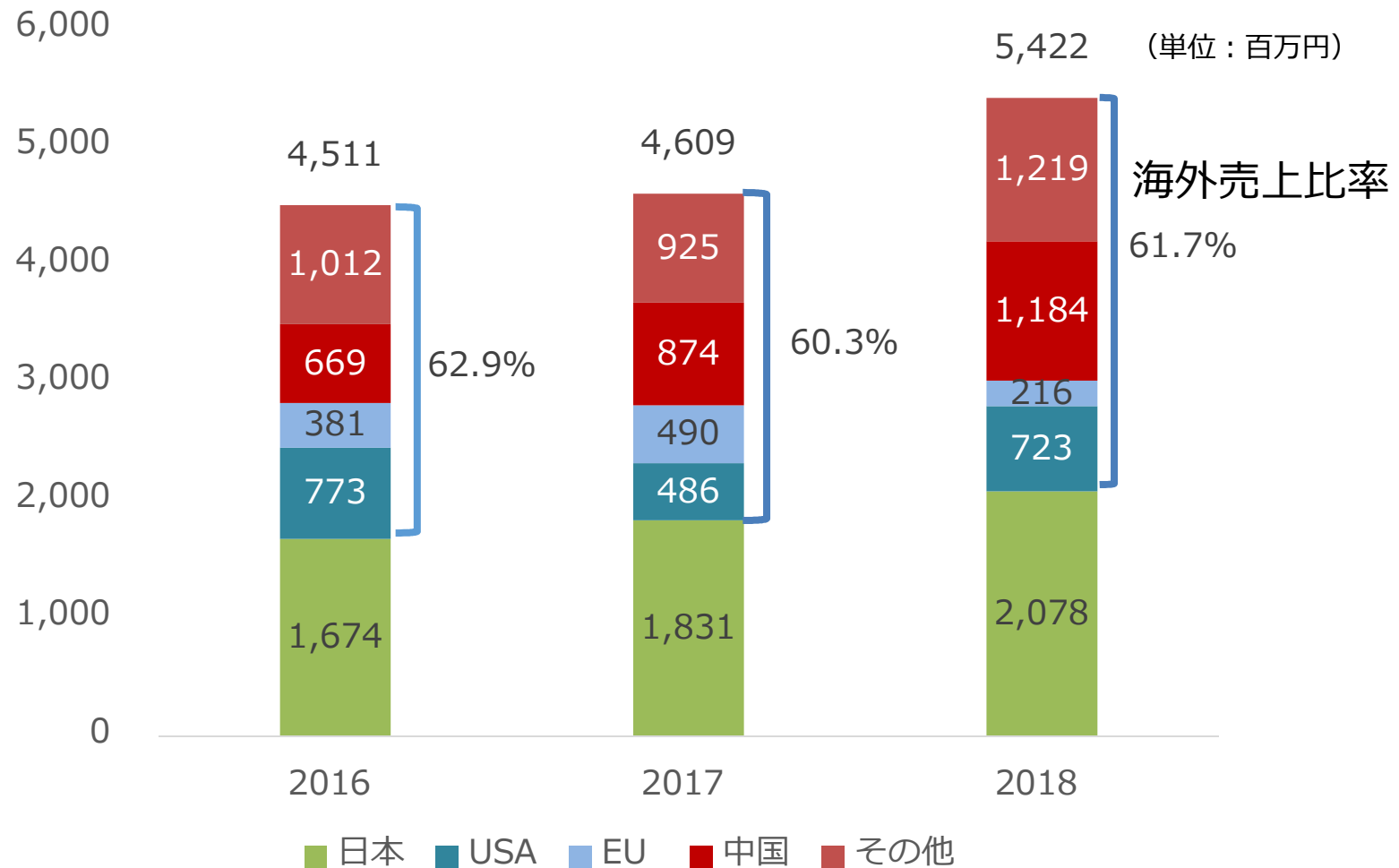
	2017年度	2018年度	対前期増減	
			増減額	増減率
光部品	1,627	2,348	+720	+44.3%
光測定器	2,465	2,894	+428	+17.4%
システム・ソリューション	516	180	△335	△65.0%
合計	4,609	5,422	+813	+17.7%

営業利益

	2017年度	2018年度	対前期増減	
			増減額	増減率
	160	263	+102	+63.9%
	454	546	+92	+20.3%
	51	△27	△79	—
	665	781	+115	+17.4%

地域別売上高の推移

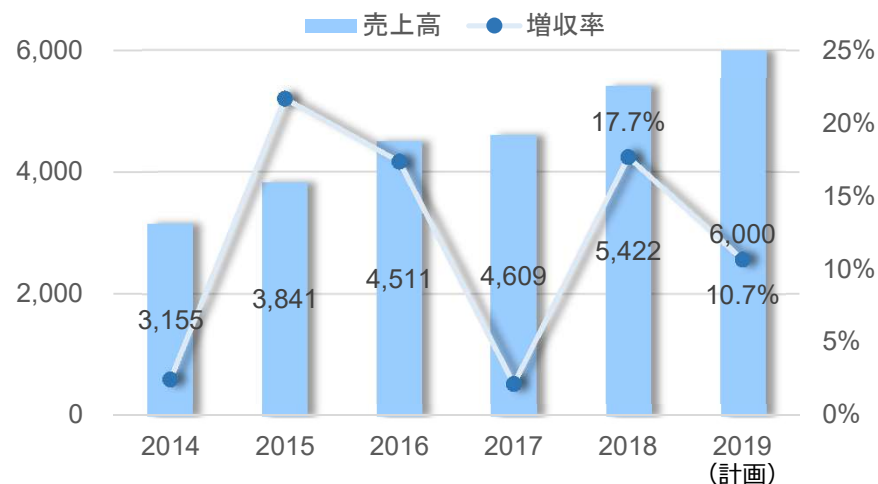
海外売上比率は、約6割で推移



主要指標

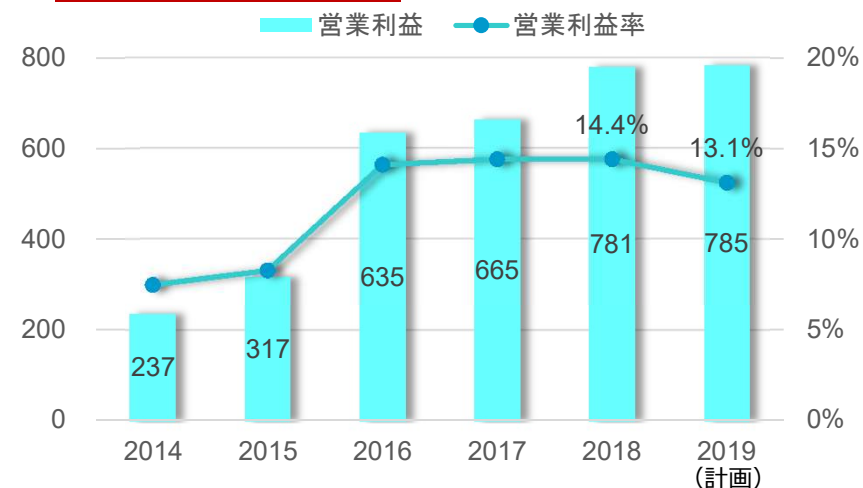
売上高

(単位：百万円)



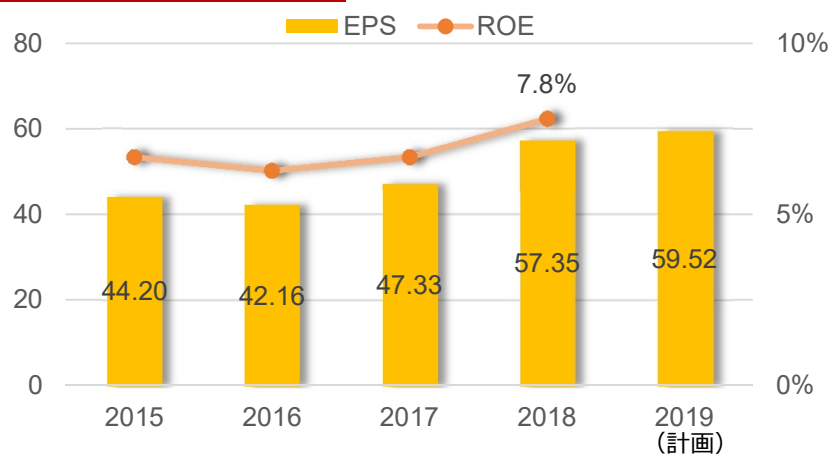
営業利益

(単位：百万円)



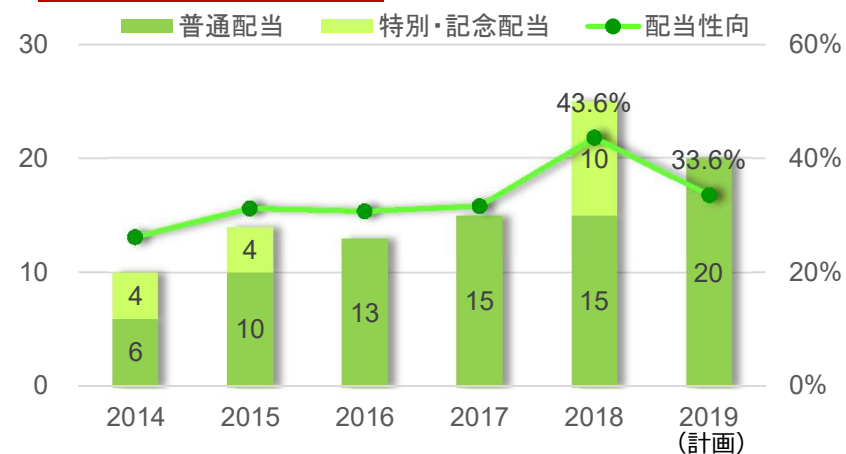
EPS

(単位：円)



配当推移

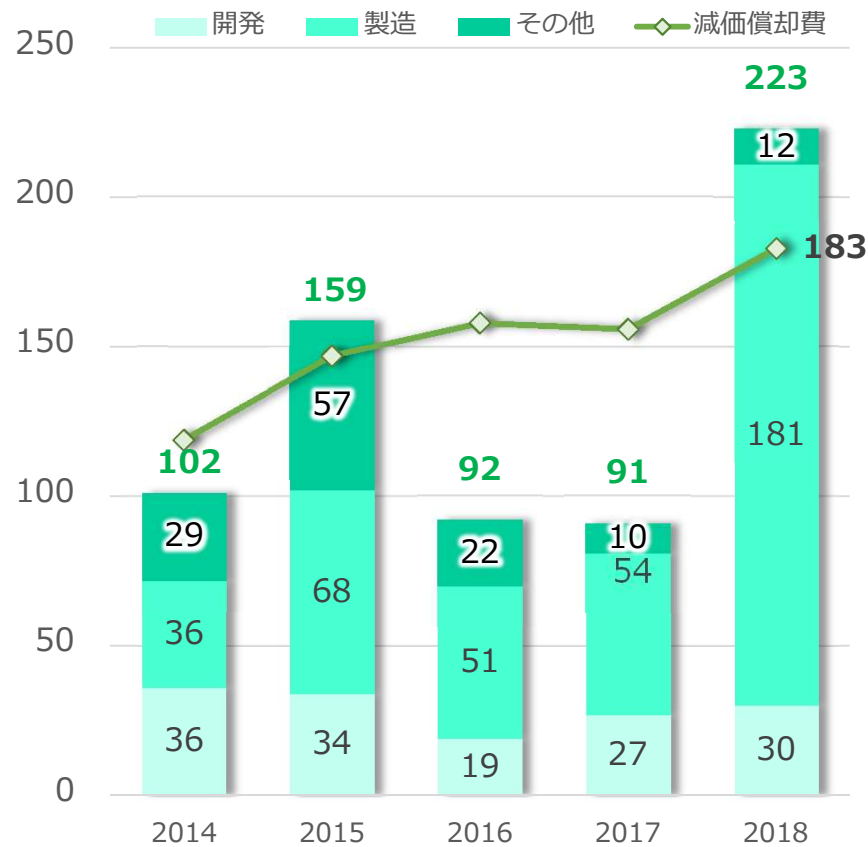
(単位：円)



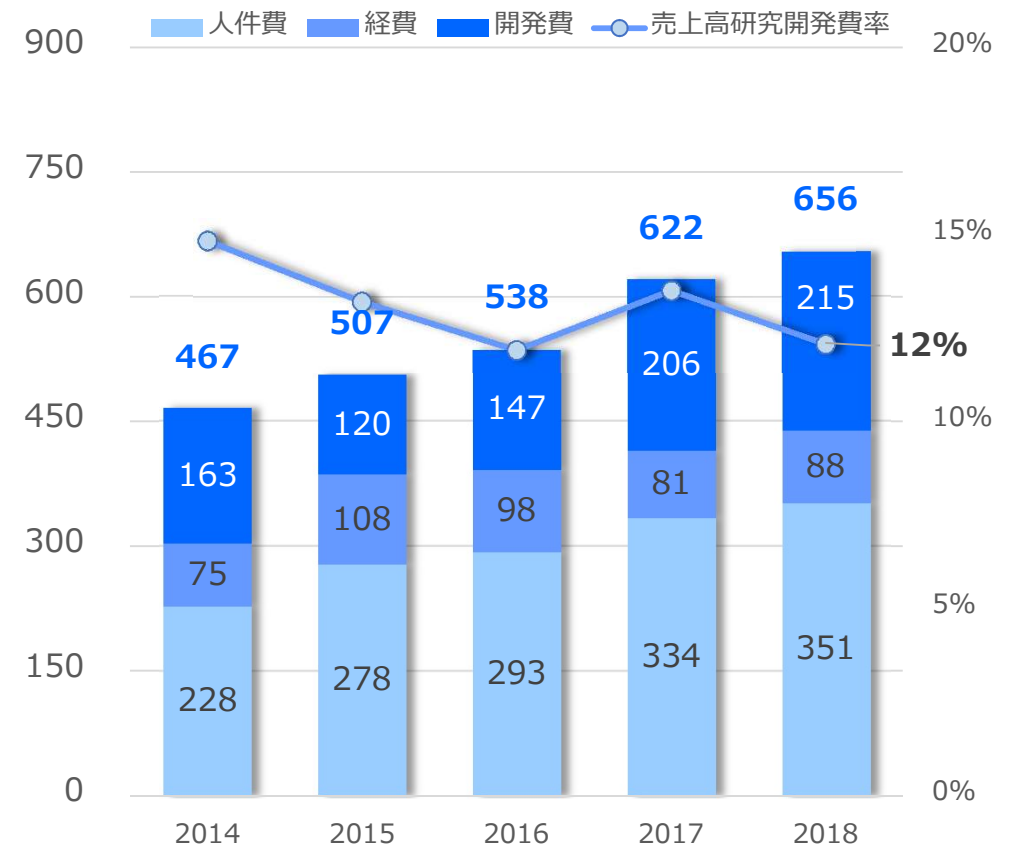
設備投資・減価償却費・研究開発費推移（連結）

（単位：百万円）

設備投資・減価償却費



研究開発費

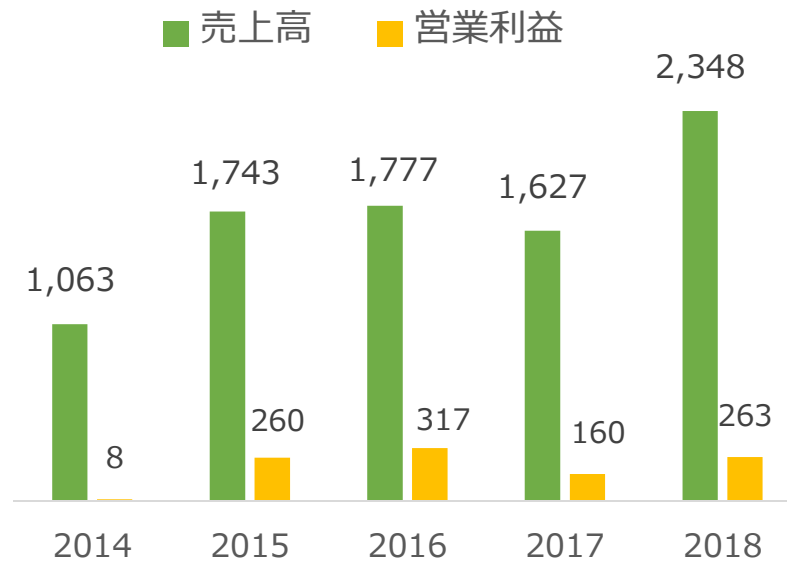


事業別の課題と戦略について

光部品関連事業 (2018年度)

セグメント業績

(単位：百万円)



地域別前年度売上比較

→は前年同期比較



MTF

(超小型波長可変フィルタ)

UTP と COVA

(小型の光モニタと光アッテネータ)

要因分析

- 北米向けの光モニタ売上が好調。需要急増を受け生産ひっ迫。
- 海底通信向け部品も、前期比で増加。

光部品関連事業の市況と戦略

<通信分野>

5G*、ビッグデータ、IoT*、クラウドビジネスの拡大



データ通信量増大による基幹網の増強

光通信用部品

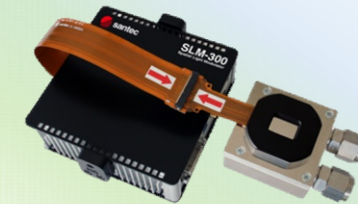
テレコム向け好調



<非通信分野>

SLM(空間光変調器)

当社光部品のLCOS技術を利用



光加工・検査等
産業分野での活躍が
期待されています。

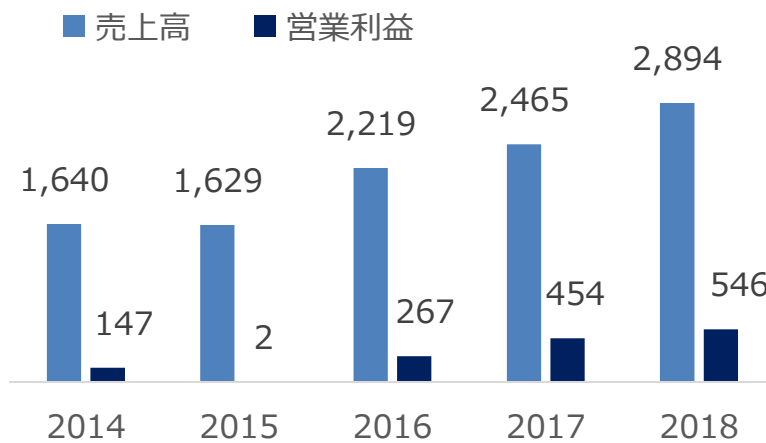
今後の課題と戦略

- 増加する需要に対して生産能力の増強が必須となっており、ベトナムの生産委託工場にて製造能力を増強中。

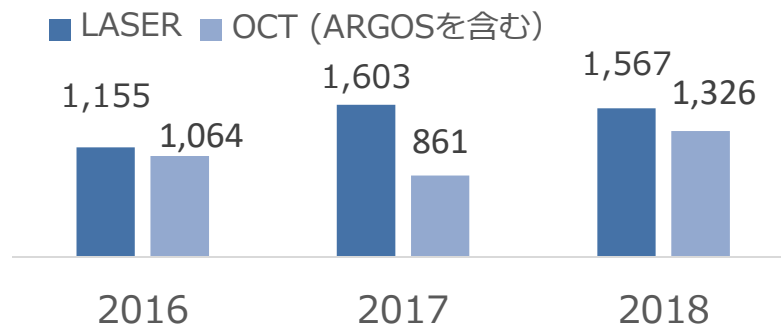
光測定器関連事業（2018年度）

セグメント業績

（単位：百万円）



売上内訳



地域別前年度売上比較

（* Asiaは中国を含む）

	日本	米国	EU	Asia
LASER	↘	↘	↘	↗
OCT	↗	↗	↘	↗



波長可変光源



OCT光源



ARGOS

要因分析

前年度に引き続き中国において、波長可変光源が好調。
日本における産業向けOCTは前期比増加。

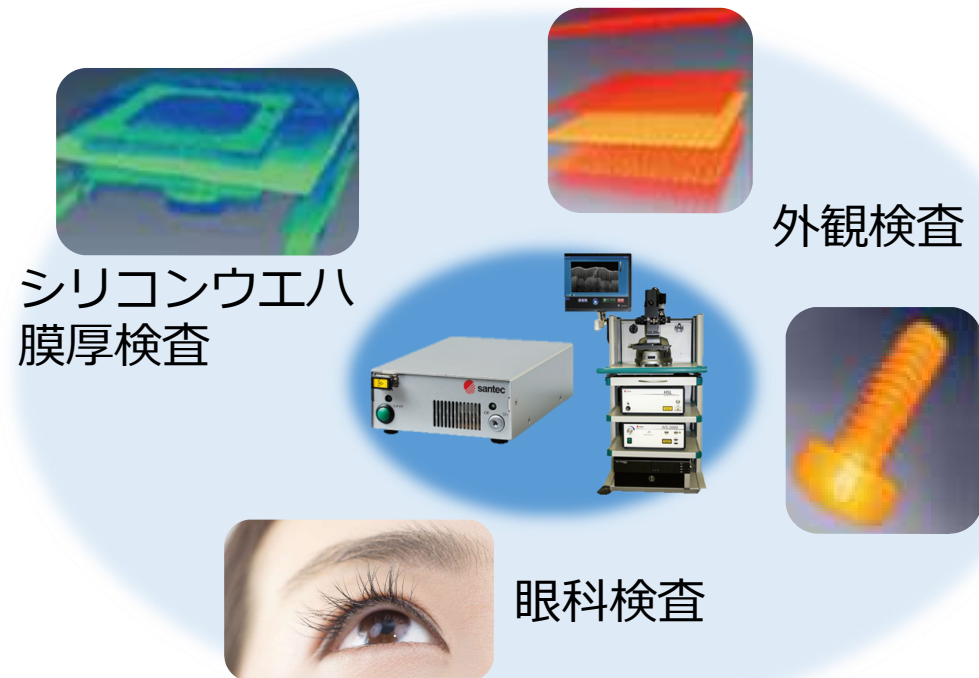
光測定器関連事業の市況と戦略 (LASER)



今後の課題と戦略

- カスタマーサポートの充実によるシェアの拡大。
- 生産現場へソリューションを提供できる体制へ変革を目指す。

光測定器関連事業の市況と戦略 (OCT*)



SPIE*で世界的なトップ データを発表

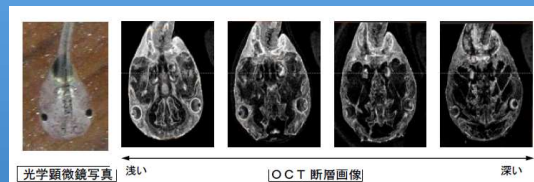


信頼性を確保しながら
高い分解能が必要な
眼底検査に対応できる
発振帯域を実現

HSL-1 (チューナブル面発光レーザ)

井上春成賞受賞

OCTシステムの開発について、
東京大学との共同受賞



今後の課題と戦略

- OCT光源の産業向けアプリケーションをさらに開拓、拡大。
(国内で順調な産業向け需要を海外でも模索)
- チューナブル面発光レーザの改良と新たな応用分野の開拓。

光測定器関連事業の市況と戦略 (MOVU)



アルコン社との戦略的アライアンス 独占代理店販売契約を締結

一般的に白内障の治療は白濁した水晶体を摘出し、人工の眼内レンズを埋め込むことによって視力を回復させます。

ARGOSは、高精度に眼内レンズの選定に必要なデータを測定し、提供します。

2019年後半から日本国内、ヨーロッパを含む一部地域から順次販売開始される予定です。

今後の課題と戦略

- アルコン社との戦略的アライアンスにより、確実な品質で安定的に量産できる体制の構築。

2019年度通期予想

基本課題 「新事業創出とグローバルコラボレーションによる成長加速」

(単位：百万円)

	2018年度 通期実績		2019年度 業績予想		対前期増減	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	5,422	100.0%	6,000	100.0%	+578	+10.7%
営業利益	781	14.4%	785	13.1%	+4	+0.5%
経常利益	976	18.0%	880	14.7%	△96	△9.8%
当期純利益	674	12.4%	700	11.7%	+26	+3.9%
年間配当 (円)	(* 1) 25円		(* 2) 20円		-	

* 1 創立40周年記念配当 10円を含む

* 2 中間配当10円、期末配当10円

■ 米ドル想定為替相場

2019年度は、期中平均110円を想定しております。

用語解説他

5G（5th Generationの略、第5世代移動通信システム）：
超高速、低遅延、マルチ接続を可能とする次世代の移動通信システム。

IoT（Internet of Thingsの略）：モノをインターネットにつなぐこと。

OCT(Optical Coherent Tomography 光干渉断層画像)：
光の干渉という性質を利用して、生体や物質の断層画像を見ることが可能となる技術。

SPIE（The international society for optics and photonics）：
1955年に米国において設立された光学関連の国際学会

* 「MOVU」「ARGOS」は、santec株式会社の登録商標です。

Copyright©2019 Santec Corporation. All rights reserved.



本資料における当社の今後の計画、見通し、戦略等の将来予想に関する記述は、当社が現時点において合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等の結果はこれらの見通しと異なる可能性がありますことをご了承ください。

本資料に関するお問合せ先

s a n t e c 株式会社
執行役員業務部長 山下 英哲
電話 0568-79-3535 (代表)
URL: <https://www.santec.com/jp>

〒485-0802
愛知県小牧市大草年上坂5823
フォトニクスバレー 大草キャンパス